

平成26年度 第1回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成27年2月12日（木）午後2時から午後4時5分まで

【開催場所】：教育委員会棟2階会議室

【出席者】：審議会委員15名

池内委員、木村委員、阪根委員、佐藤翔吾委員、佐藤誠二委員、大黒委員、
中川委員、西川委員、西田委員、延本委員、藤井委員、藤原委員、矢金委員、
山田委員、山本委員

鳴門市10名

近藤教育長、荒川教育次長、天満教育総務課長、笠井学校教育課長、
三好生涯学習人権課長、中山教育支援室長、島体育振興室長、事務局3名
傍聴者 なし

○次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 審議会委員の自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 審議会への諮問
- 6 審議会の進め方について
- 7 議事
(1) 鳴門市教育振興計画について
(2) 保護者アンケート調査結果（速報）について
(3) 計画の策定に向けた自由意見
- 8 その他
- 9 閉会

○会議資料

- 【資料1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧
- 【資料2】 鳴門市附属機関設置条例
- 【資料3】 鳴門市教育振興計画審議会運営要綱
- 【資料4】 鳴門市教育振興計画策定スケジュール
- 【資料5-①】 教育振興計画基本構想（本編）
- 【資料5-②】 教育振興計画基本計画（本編・概要版）
- 【資料5-③】 第六次鳴門市総合計画 実施計画 平成25年度実績まとめ
- 【資料番号なし】 保護者アンケート調査結果（速報）について

○会議概要

- 1 事務局が開会を宣言した。
- 2 近藤教育長があいさつを行った。
- 3 審議会委員が自己紹介を行い、続いて事務局が自己紹介を行った。
- 4 委員の互選により、会長に阪根委員を、副会長に山本委員を選任した。
- 5 教育長から阪根会長に鳴門市教育振興計画の策定についての諮問書を手渡した。
- 6 審議会の進め方、スケジュールについて事務局が説明した。
- 7 議事（1）（2）について事務局が説明した。
議事（3）として、各委員が意見、感想等を述べた。
発言の内容は以下のとおり

■議事（3）計画の策定に向けた自由意見について

会 長

事務局からこれまでの計画、進捗状況、保護者アンケートについて説明があった。第1回目ということもあり、委員の皆さんから、率直な意見、感想をいただきたい。

E委員

現行計画について、説明いただいたが、ここ10年間の小学生の数は継続して減少しているが、中学生の生徒数に増減があるのはなぜか。

事務局

小学校の児童数については、継続した減少傾向が顕著に表れているが、中学生は3学年と学年数が少ないため、年による若干のばらつきが表れていると思われる。

E委員

資料5-③の第六次鳴門市総合計画実施計画の実績についての説明があったが、未達成の2事業について詳しく説明してほしい。

教育総務課長

2件とも建設事業等に関わるもので、年度内に予算計上して着手したが、翌年度に事業を繰り越した場合には、未達成という評価になる。給食センターについては、全体としては順調に進んでいるが、年度の区切りでは未達成ということになる。学校の耐震化についても同様に、年度を跨いで繰越処理をしたことなどで未達成になっている。

B委員

今後、教育振興計画を策定するにあたり、どのような将来の子ども像・未来像を描いて目標や方針を立てていくのかということが一番重要で、それに向けて保護者アンケートを実施したと思う。本市の就学前人口が減少してきている中で、どんな教育像・基本方針を描くのかということが課題になると思う。

D委員

このような審議会は初めて参加するが、今年1年間はしっかり勉強させていただき、意見を述べたいと考えている。

G委員

鳴門市が頑張っているのを感じて、保護者も安心して頑張って子育てをしていこうと思えるような会にしたい。

K委員

ボランティア教育や情緒教育が重要でないかと思う。
先程の総合計画実施計画実績の未達成の事業は、具体的にはいつ完成する予定なのか。

教育総務課長

新給食センターについては、計画どおり平成28年9月から稼働させる予定で、建設事業費を27年度の当初予算に計上する予定としている。
学校施設の耐震化については、小中学校の校舎と体育館の構造の補強を平成27年度までのできるだけ早期に行うよう国からの要請がある。
現在第一中学校は耐震化に向けた改築を行っており、あと3年程かかる予定だが、それ以外の校舎・体育館は平成27年度で完成する予定としている。
幼稚園の園舎については、耐震化の方法等に検討を要する所が2園あるが、それ以外の耐震化が必要な5園については、平成27年度中の着工を予定している。

L 委員

給食センターについては、地元とよく協議するなど配慮して建てて欲しい。
国際化・グローバル化が進む中で、こどもの権利条約などで義務教育に関して定められているので、外国の方が鳴門へ来た場合に、その子どもの受け入れ、教育についての対応を考えていく必要がある。

会長

外国の子どもの受け入れ人数は把握しているか。

学校教育課長

今具体的な数値のわかる資料を持っていないが、両親のいずれかが外国の方というような家庭は多くある。
そのような場合、小学校においては、県教委への要望により加配の教員が付き、対応する場合もある。

L 委員

外国の子どもと交流・勉強することによって、文化の受け入れもできると思う。
大人になったときに、差別をしないような教育が必要であると思う。

学校教育課長

人権教育や、国際理解教育という中で、鳴門教育大学の留学生の方に小学校に来ていただいて交流活動を行ったり、ALT が幼稚園へ行って交流活動をしたりと、異文化交流も積極的に進めており、今後も継続して活動していきたいと思っている。

N 委員

鳴門は自然が豊かで、そういった自然環境の中で子どもの教育を育てて欲しいという意見をよく耳にする。
兵庫県の生野学園に視察に行ったことがあるが、自然体験をさせてやると、心が豊かになって、不登校や引きこもりがなくなっていると聞いた。
鳴門の教育もそういったところに重点を置いて、子どもたちが自然に親しんで、鳴門に親しみ、郷土が美しいと分かれば、過疎化も少しは少なくなるのではないかと思う。
また、人権教育の推進については、週に1時間の道徳の時間をもう少し増やして欲しい。道徳を教育していくと、いじめも少なくなると思う。
防災に関しては、学校で防災訓練などを行っているが、地震はいつくるか分からないので、家庭でいるとき、登下校中、いろんな場面を想定して防災教育を行って欲しい。

J 委員

1年かけて熱意をもって、新たな教育振興計画を策定していくことになるが、策定した計画がどこまで浸透していくかが課題。学校現場の管理職である校長・教頭までしか浸透しないのであれば意味がない。

N 委員

読書に関してだが、学校図書館の開館時間が少ないように思う。
できるだけ子どもが本に親しむ機会をつくっていきけるような方策をとって欲しい。

Q 委員

2学期制ができて10年になるが、2学期制を続けていくのか。
徳島県でも3学期制に戻している市町村もある。
この制度が決まっていないと、構想を立てられないと思う。
初めに鳴門市の方針を聞きたい。

会長

教育システムに関わることなので、2回目以降の会合で事務局に説明していただき、審議に入ることにしたい。

F委員

現行計画の策定時には、当時の保護者は学校再編のことを一番気にしていたし、現在も保護者の関心の高い事柄だと思う。
今回、保護者対象のアンケートを実施したということで、その結果に基づき新たな計画を策定するのか、現行計画の実績の総括をしたうえで計画を策定するのか、方針を聞きたい。

学校教育課長

毎年度の取り組みとしては、鳴門市行政評価の事務事業評価シートで主要な事業について毎年評価をしながら進んでいる。
そういうことも含めて、これまでの評価等も含めた、一定の総括という形を取っていきたいと考えている。
アンケートについては、それを補完するかたちで、計画策定に向けての参考とさせていただきたいと考えている。

会長

総括については時間もかかるので、次回に行きたい。

C委員

子ども会、育成会の活動が全市的に滞ってきている。
少子化の影響や、活動に対する保護者の意欲の問題などで、子どもたちの地域に対する気持ちが消えていくことを心配している。
子どもたちのためだけでなく、その先の鳴門市全体の話にも関係してくると思うので、具体的な施策を検討すべき。
説明の中で、格差の再生産・固定化という言葉があったが、母子家庭や父子家庭、DVにさらされている子どもたちは、放課後の活動や地域からの支援活動など、教育委員会や学校の事業に参加できない場合が多いと思うが、そういった状況を救済する施策を市長部局とともに充実させていくべきだ。

I委員

保護者アンケートの設問内容はどのようなものか。

事務局

アンケートの集計結果の説明時に若干触れたが、市の教育施策の満足度・重要度について、学校教育について、生涯学習について、教育制度や施設についてなど、教育に関する広い範囲での設問となっている。
内容等については、まもなく集計が完了する予定であるので、報告書として調製でき次第、各委員へ郵送させていただく。

I委員

鳴門市の公民館では、地域の子どもは地域で育てようと、三世代を通じた公民館の利用活動推進事業なども行っているが、なかなか保護者の理解が得られない面もあって、出席者数も少ない。
公民館の利用者は高齢者や女性が8割近くで、青少年の利用がほとんどなく、公民館の利用が減っているので、公民館をより魅力的にすることで利用者数が増えることや、公民館活動を通じて、市民に地域で住んでもらえるようになることが理想だと思う。

P委員

食育の推進については、家庭での食事のあり方を、子どもだけでなく家族の中で情報を

共有し、たくましい子どもを育てるという意識を持っていただけたらいいと思う。
また、学童保育や放課後児童クラブでは、子どもを預かるだけではなく、そこで子どもをどう育てるかということも考えていただけたらいいと思う。

A委員

これからの10年間の教育を考えたとき、国際化・グローバル化・高度情報化・少子高齢化の時代の中、個人の価値観も多様化しており、新たな教育振興計画の策定にあたっての将来展望を見据えることは大変だと感じる。

一番気がかりなのは、少子化の問題で、子どもの教育の質を考える前に、子どもをどう増やすか、若い人にとって魅力のある町とはどういうことかを考える必要がある。

そのまちづくりの中で、鳴門市全体で赤ちゃんから青少年、高齢者までをどう育てていくか、支援するかということを考えなければならない。

他の自治体でも地域ぐるみで教育をしようと盛んに言われているが、鳴門市も素晴らしいところがたくさんあるので、子どもとPTA、地域の方が一緒になって活性化するようなものも必要ではないかと思う。

徳島県の教育振興計画は、5年で見直しを行っている。

5年先の状況変化は分からないため、計画期間の前期5年間については、より具体的な施策についても審議できたらいいと思う。

会長

県は5年ごと、東かがわ市では3年ごとに見直しと、自治体ごとに様々なパターンがあるので、10年計画を途中で見直すのか、あるいは10年ごとに見直すのかについては、また事務局から提案があると思う。

様々な考え方があるという話も出てきたが、今般、この会議を一つの契機にして、いろんな情報をぜひみなさんに提供して欲しい。そしてみなさん何かを作っていたらありがたい。

それでは、その他として、事務局から何かあれば次回のスケジュールも含めてお話しをしていただきたい。

- 8 その他として、事務局より次回の開催については6月頃を予定している旨報告した。
- 9 閉会